

史跡鴻臚館跡

-平成25年度発掘調査現地説明会資料-

平成26年2月15日（土曜日）10:00~13:00

平成25年度鴻臚館跡の調査は、鴻臚館北館の北西隅の様子を確認するため、平成25年7月1日から実施しました。

福岡城以前

調査地点のトレンチ1では、福岡城が造られた頃の埋め立ての下から、室町～戦国時代の整地が見つかりました。この整地の中には鴻臚館の建物に葺かれていた屋根瓦がたくさん入っていました。11世紀中ごろに鴻臚館が使われなくなり、その跡地に散乱していた瓦などが、後の時代の整地の時に一緒に谷側に投げ込まれたと考えられます。整地が行われた室町～戦国時代の遺構には建物の区画溝、柱穴、池などがありました。これらがどのような性格のものかはまだはっきりしませんが、福岡城が造られる前の様子を知るための手がかりとなります。

鴻臚館の時代

鴻臚館に関する遺構は鴻臚館Ⅱ期（奈良時代）の北館の布掘堀、トイレ状遺構、Ⅲ期（平安時代前半）の建物の礎石、Ⅳ～Ⅴ期（平安時代後半）の土坑などがありました。遺物は奈良～平安時代の瓦類、輸入陶磁器類、銅印などがあります。

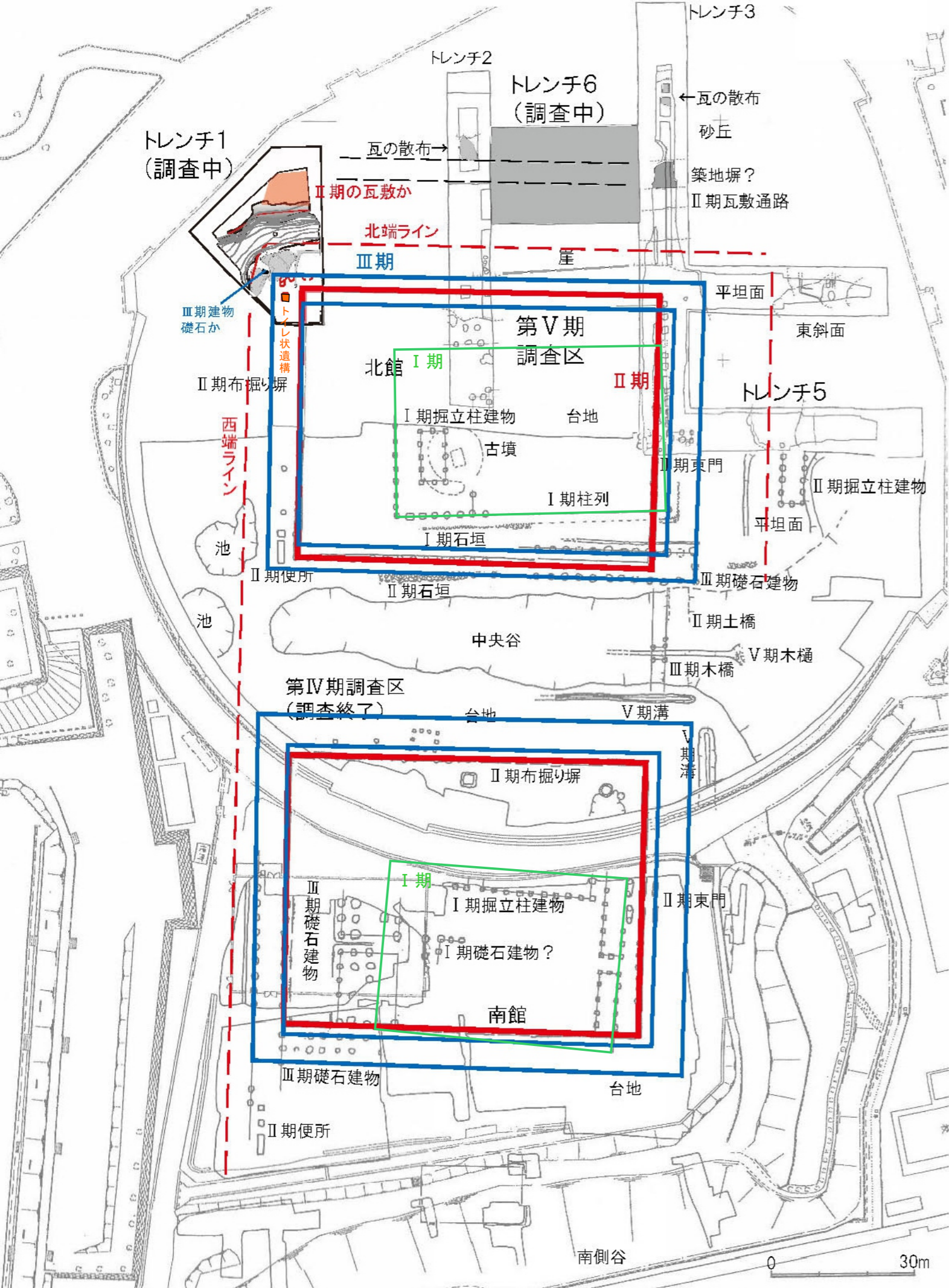
今回の調査の大きな成果は北館の北側の崖からその下の砂浜に至る場所の整地の様子が確認されたことです。おそらくⅡ期の建物を造るときにⅠ期の範囲から北側と西側に敷地を広げています。その際には崖の下の砂浜をならし、瓦を敷いて地盤を強化しています。その後、何度かかさ上げた様子がわかりました。

Ⅱ期の堀は直角に東側に折れるもので、北館を囲む堀のコーナーにあたります。トイレ状遺構は一辺約1.4mの正方形の土坑で、約3.4mの深さがあります。これまでに北館の南西隅に2基、南館の南西隅に3基見つかっていました。今回はじめて北西隅で見つかりましたが、これまでの発見例と異なり、トイレで使った籌木（ちゅうぎ：当時のトイレトーパー代わりのもの）が出土していないため、トイレとして使用したかは検討する必要があります。

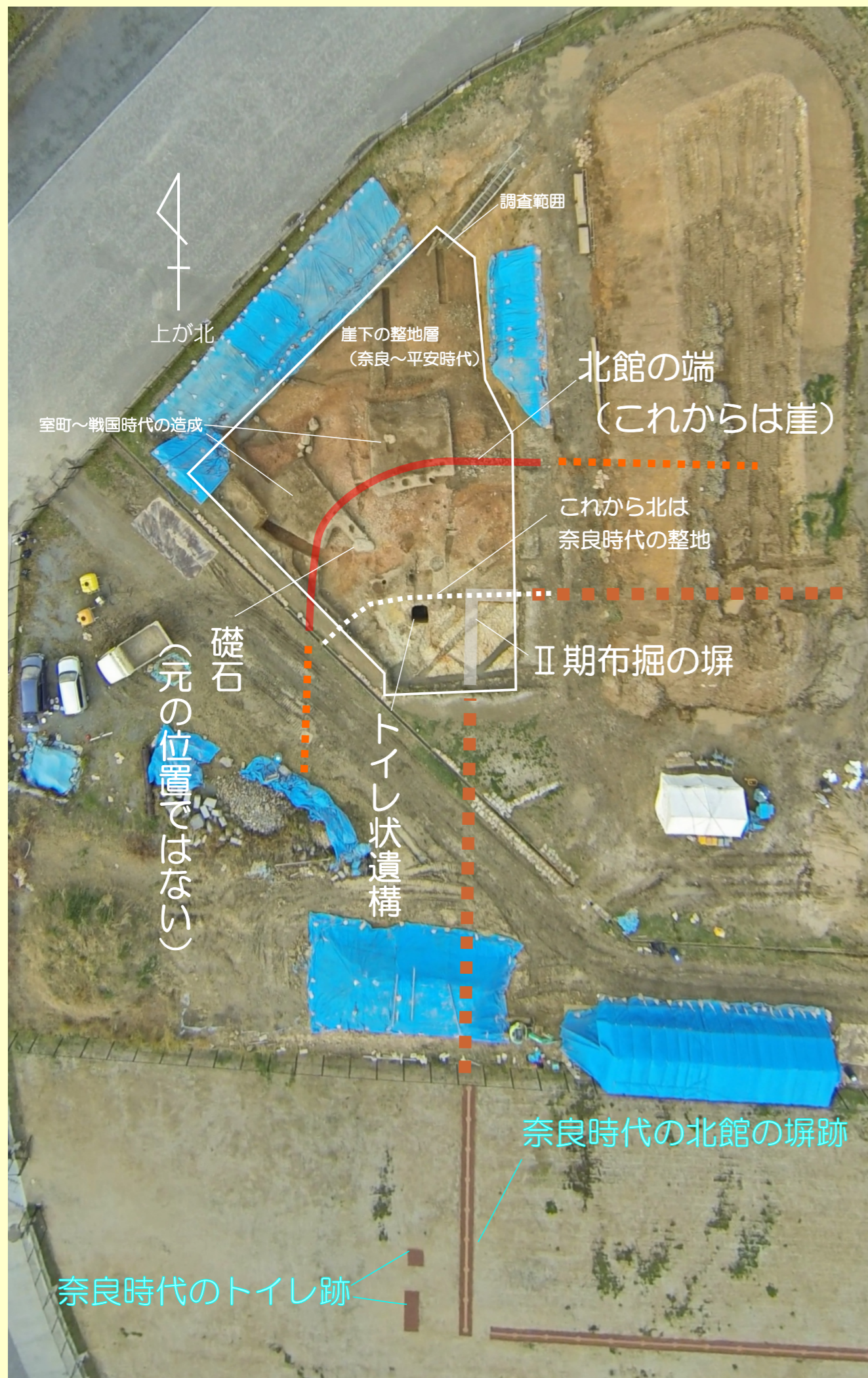
Ⅲ期の礎石は大きさは1mを超えるもので、鴻臚館跡展示館のⅢ期の礎石によく似たものです。ただし、礎石は室町時代にこのあたりに池を造ったときに動かされており、当時の位置はとどめていません。

調査のまとめ

今回の調査で北館の北西隅の様子が確認されたことで、鴻臚館の建物の範囲がはっきりしてきました。これまでの調査成果と総合すると、Ⅱ期の施設の設置に伴い、東西約100m、南北200mの範囲を整地したと考えられます。Ⅲ期もその範囲を踏襲しながら、11世紀中ごろの終焉を迎えたと考えられます。その後の室町～戦国時代の整地では鴻臚館の頃の地形の名残は残っていたと考えられますが、黒田氏の福岡城の築城による大規模な造成により、地形の名残は地下深く埋め立てられました。



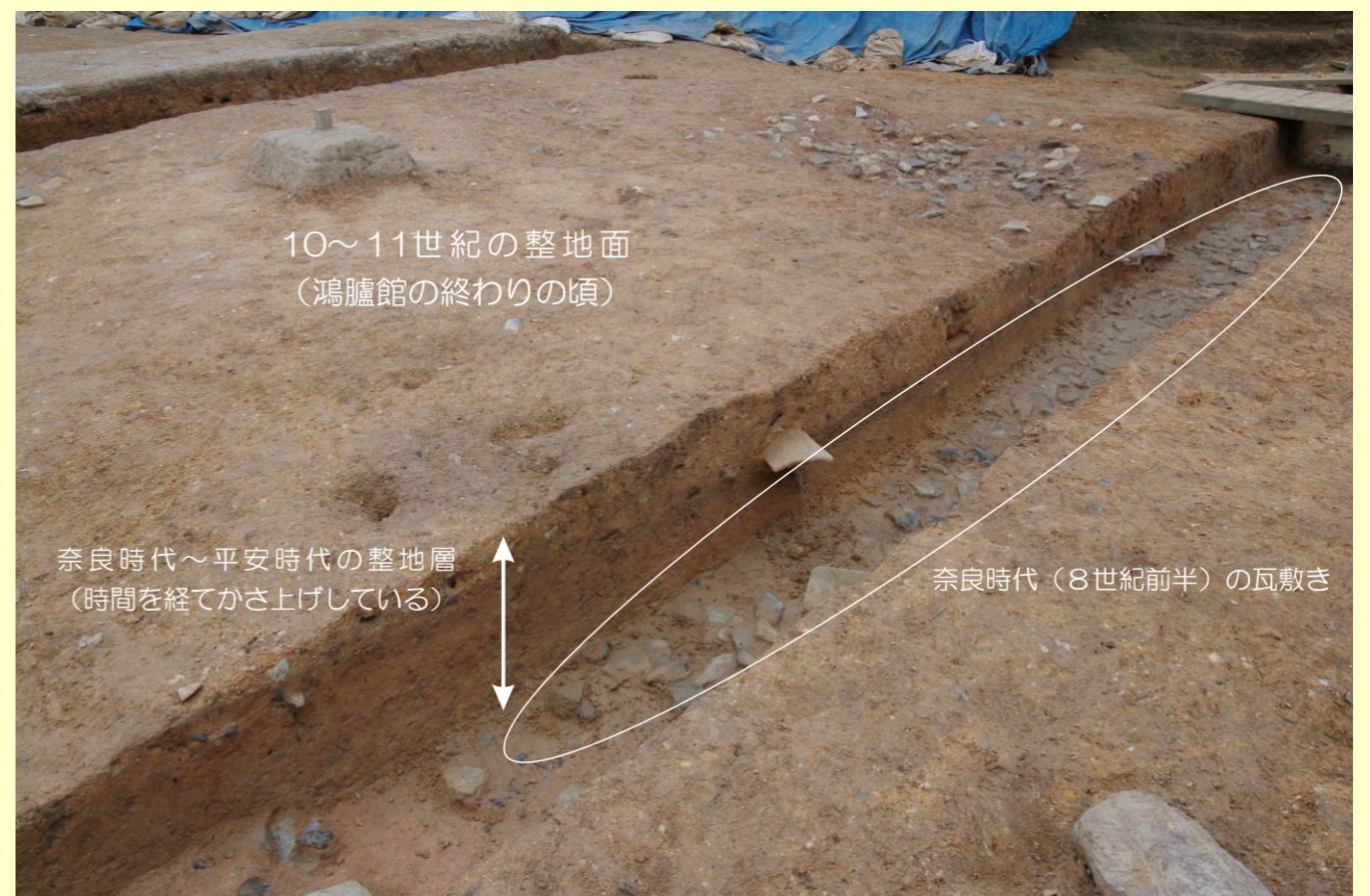
鴻臚館跡平成25年度調査区位置図 (1/1,000)



平成25年度鴻臚館跡発掘調査地点（トレンチ1）全景



平成25年度鴻臚館跡発掘調査地点（トレンチ1）（北から）



トレンチ1崖下の整地層（東から）

※北館の北側の崖下は奈良時代（8世紀前半）に砂浜の上を平らに整地している。整地の際には瓦を敷きつめて地盤の補強を行っている。その後、平安時代（11世紀）までの間に幾度かかさ上げを行っている。